

全校朝会（手ぬぐい）

2017. 9. 11

6年生に、卒業までにどんなクラスをつくっていきたいかを聞きました。

- ・仲の良いクラス、まとまりのあるクラス、という答えが返ってきました。

この間は、諏訪神社のお祭りがありました。昨日と一昨日は、下落合の氷川神社のお祭りでした。行った人も多いのではないのでしょうか。諏訪神社は因幡の白兔のお話の大国主命が祀られていましたが、氷川神社は大国主の命のお父さんで、八つの頭を持つ大蛇のヤマタノオロチを倒した素戔鳴尊が祀られているそうです。

私は、聖母病院の近くでお神輿を見かけました。その時、法被を着て、足袋をはいて、豆絞りという手ぬぐいを頭や首に巻いたりしている人の姿を見て、今度手ぬぐいについて話しますと言ったことを思い出しました。今日は手ぬぐいの話です。

これは、この間の諏訪神社のお祭りの時にいただいた手ぬぐいです。豆絞りと言います。手ぬぐいには、いろいろな模様がありますが、おめでたい柄が多くて、この豆絞りも「子孫繁栄」という意味が込められています。子供や孫の時代までつながる、命がずっとつながっていくという意味です。豆は1粒まくと、たくさんの実ができるということからできた言葉です。他にも、どこまでも広がるという意味をもつ青海波という模様や、すくすくと成長するという意味をもつ麻の葉模様、長生きを意味する蝙蝠の模様などがあります。これは、トンボの柄です。これもおめでたい柄です。トンボは前に飛ぶけれど後ろには下がらないということから勝利を呼ぶ縁起の良い虫だと言われているからです。縁起のよい模様、おめでたい模様の他に、歌舞伎柄もあります。最近では、こんなパイナップルの柄の手ぬぐいもあります。

この手ぬぐいは、昔は身分の高い人しか使うことができないものだったのだそうです。身分の高い人が、日よけやおしゃれのために使っていました。でも、便利だしカッコいいというのでほしがる人がたくさんいたので、たくさん作って売られるようになり、身分の高い人でなくても使うことができるようになりました。汗を拭いたり、手を洗った後に拭いたり、布巾のかわりにお茶碗や机の上を拭いたりするために使うのはもちろんですが、マフラーのように肩にかけたり、着物の帯にはさんでエプロンのように使ったり、髪の毛をたばねたりお化粧をしたりする時にお着物が汚れないように肩にかけたり、鉢巻のようにしたり、お風呂で体を洗ったり、怪我をしたときに包帯のかわりに使ったりするなど、たくさんの使い道があります。ですから手ぬぐいの人気はけっこう長続きしました。今は、タオルやハンカチがよく使われていますが、首にかけておいて汗を拭くときにはとても便利なので、農家の人は、畑や田んぼで作業をする時には今でもけっこう手ぬぐいを使うそうです。剣道をする時に髪の毛をまとめたり、海にもぐってお魚や貝をとる海女さんなどが頭に巻いたりするときにも使っています。日本舞踊という踊りや歌舞伎という日本にむかしからあるお芝居の道具の一つとして使ったりもしています。赤ちゃんのおしめは、使い捨てのものが売られていますが、今でも手ぬぐいを使っている人もいます。水をすった後、手ぬぐいは乾きやすいので、赤ちゃんにやさしいからだそうです。折り紙のように使ったり飾ったりする人もいます。手ぬぐいの使い道は本当にたくさんあるなと思いました。

この手ぬぐいは、お弁当をつつむ、本をつつむ、瓶をつつむというように、何かをつつむときにも使われます。つつむもので、日本に昔からあるものには、風呂敷もあります。風呂敷には、どのような意味があるのでしょうか。つつむものではないけれど、日本に昔からあって、便利で、他の国の人知らないようなものも、まだまだたくさんあるのではないかと思います。「こんなものがあります」ということに気付いた人は、是非、教えてください。